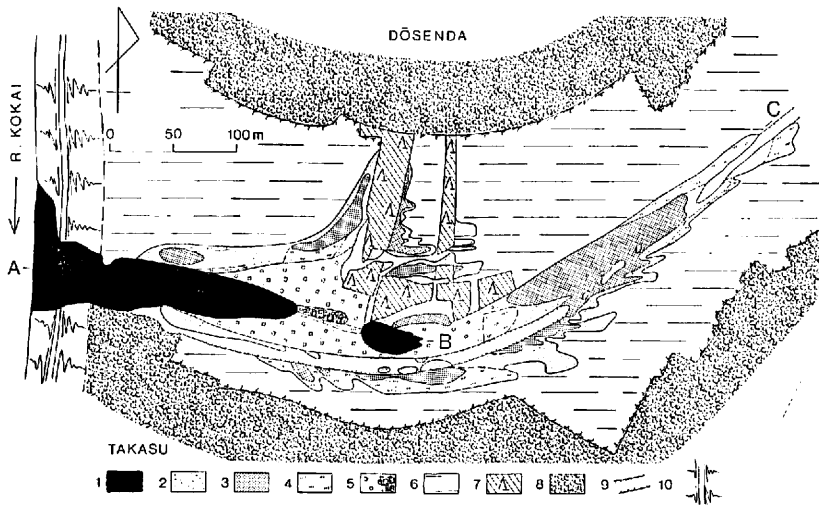


## 1981年8月小貝川破堤地点における地形変化

伊勢屋 ふじこ (院・地球科学)  
池田 宏 (地球科学系)  
三上 靖彦 (院・環境科学)

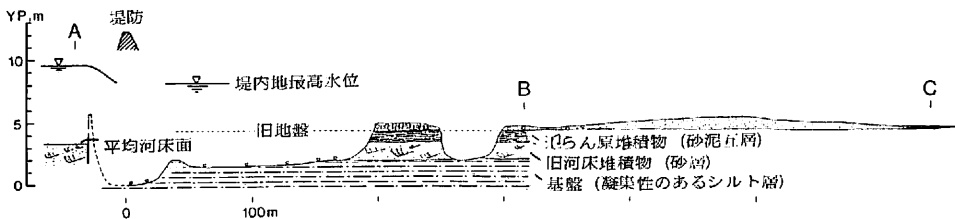
1981年8月、台風15号のもたらした豪雨による増水で、小貝川の左岸堤防が利根川との合流点から約4 km 上流の藤代町高須地点で決壊した。その結果、破堤地点には大小二つのおっ堀が形成され、その周辺には多量の土砂が堆積した(第1, 2図)。破堤地点の地形変化は、侵食域(おっ堀の形成された地域)、運搬域(砂の厚さはかえっ

て薄く、ガレキが残留して散在している地域)、堆積域(砂の堆積域と砂質泥の堆積域)に3分された。なお、現地測量によって、土砂量計算を行った結果、周辺に堆積した土砂は、小貝川の現河床から供給されたのではなく、おっ堀から供給されたことが判明した。



第1図 破堤地点におけるおっ堀と土砂の堆積の分布

1. おっ堀 2. 砂の堆積地域 3. 砂の厚さが60cm以上の所 4. 穂発芽 5. ガレキとその集積帯
6. 泥～砂質泥の堆積地域 7. 林 8. 集落の立地する微高地 9. 用水路 10. 堤防



第2図 破堤地点における地形縦断面図(断面線位置は第1図参照)